



断りを入れても長所は変わらない — 談話焦点が人物の好ましくなさに及ぼす効果 —

○井関龍太^{1,2}・楠見 孝²
(¹日本学術振興会・²京都大学教育学研究科)

研究の背景

【談話焦点が文解釈に及ぼす影響】

“Aだが、Bだ。”といった**逆接表現**を用いることで、一方の構成要素 (B) を強調し、他方 (A) から注目をそらすことができる (Sanford & Garrod, 1998)

→井関・菊地 (2007, 認知心大会) による検証:

- ・同じパーソナリティ特性を組み合わせで作った文でも、**逆接表現**によって**ネガティブ特性**から注目をそらした方が好ましさの評価が高くなった
- ・**ポジティブ特性**では、同様の効果なし

【本研究の目的】

好ましくなさの評価を求めることによって、**ポジティブ特性**で談話焦点の効果が見られなかった理由について検討する

- 評価基準の違いによる説明**: “好ましさ”を評価するときには、評価の基準である好ましさを下げる情報 (i.e., **ネガティブ特性**) への敏感性が高まる
→好ましくなさを基準にすると、逆の結果 (**ポジティブ語**でのみ効果)
- ネガティビティ・バイアスによる説明**: 人物の印象を評価する場合には、もともと**ネガティブ情報**の影響力が強い
→好ましさ評価と同じ結果 (**ネガティブ語**で効果)

方法

実験参加者: 調査会社に登録した大学生62名。

要因計画: 2 (特性語: ポジティブ・ネガティブ) × 2 (接続法: 逆接・順接) × 2 (特性語の位置: 先行・後続) の被験者内計画。

材料: 56組の文材料 (井関・菊地, 2007, 認知心大会)。

- ・特性語は、青木 (1971) に基づいて選択。
- ・中立語とポジティブ語 or 中立語とネガティブ語。

使用した材料の例

【ポジティブ語】

- 先行-逆接: 和也は**がまん強い**が、欲がない。
- 先行-順接: 和也は**がまん強く**、欲がない。
- 後続-逆接: 和也は欲がないが、**がまん強い**。
- 後続-順接: 和也は欲がなく、**がまん強い**。

【ネガティブ語】

- 先行-逆接: 和也は**知ったかぶり**をするが、欲がない。
- 先行-順接: 和也は**知ったかぶり**をし、欲がない。
- 後続-逆接: 和也は欲がないが、**知ったかぶり**をする。
- 後続-順接: 和也は欲がなく、**知ったかぶり**をする。

※非中立語を色つきで示した。実際の画面では、すべて黒で提示した。

手続き: 実験参加者は、PC上で各文を読んで、文の述べる人物が“どのくらいいやな人物だと思うか”判断して、好ましくなさについて5段階で評価した (1 = “まったくいやでない” ~ 5 = “とてもいやだ”)。

結果と考察

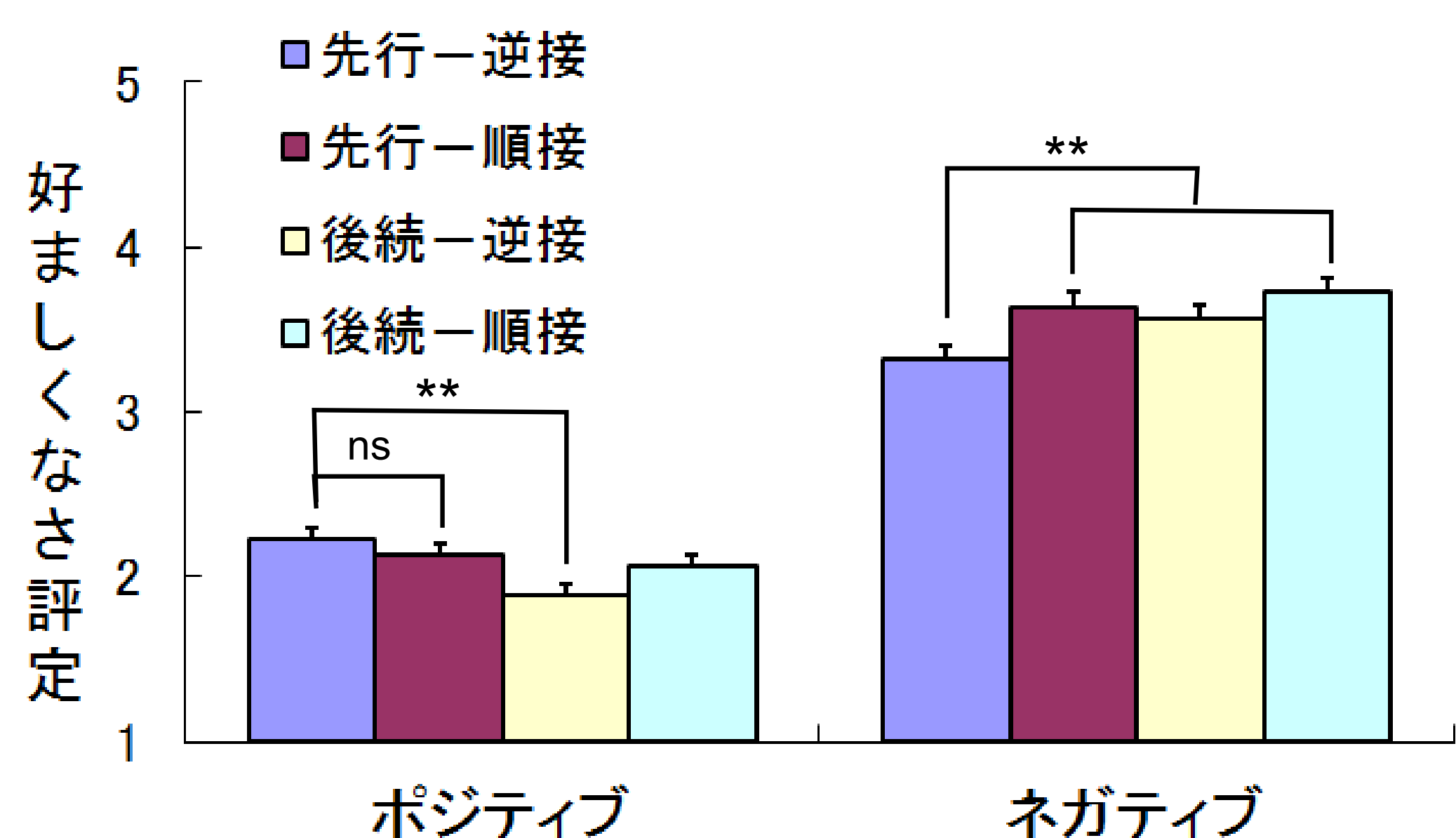


Figure 1. 各条件の好ましくなさ評定の平均値 (バーは標準誤差を示す)

【全体での分析の結果】

- ・3要因の交互作用が有意
- 特性語ごとにパターンを検討

【ネガティブ特性】

- ・**接続法×特性語の位置**の交互作用が有意: 先行-逆接条件でのみ好ましくなさが減少
- 好ましさ評価での結果を再現 (井関・菊地, 2007)

【ポジティブ特性】

- ・**接続法×特性語の位置**の交互作用が有意: ただし、詳細が**ネガティブ特性**の場合と異なる

 - 先行-逆接条件 > 後続-逆接条件
→中立語を強調した場合との比較では有意
 - 先行-逆接条件 = 先行-順接条件
→より中立的な、談話焦点による強調のない順接条件との比較では有意でない

【談話焦点の機能】

- 好ましくなさ評価を用いたときも、好ましさ評価の場合とほぼ同様 (**ネガティビティ・バイアス**)
- ・**ネガティブ語**: 談話焦点によって、評価が向上 (好ましくなさが減った)
- ・**ポジティブ語**: 焦点の効果は明瞭でない (好ましくなさは順接条件と変わらなかった)
- 談話焦点は、情報がもともと持つ価 (valence) の逆の方向へ解釈にバイアスをかける